

○潤…山あいの流水。たに。ここは「山あいの」の意。「潤戸」（＝山あいの家）の例。底本では「潤」に作るが、ここでは採らない。後の「二章」で詳述する。

○傲吏…おごっている役人。『漢語大詞典』には「不爲礼法所屈的官吏」と説明する。『文選』郭璞の「遊仙」詩「漆園有傲吏、萊氏有逸妻」の句を踏まえる『莊子』に纏わる語。後の「二章」で詳述する。

○隨處…どこでも。到る處。ここかしこ。『漢語大詞典』には「不拘何地・到处」と説明する。

○空王…仏の尊称。仏が世界を一切皆空なりと説いたからいう。『漢語大詞典』には「佛教語。佛的尊称。佛說世界一切皆空。故称「空王」と説明する。

○藜杖…あかざの木で作った杖。『漢語大詞典』には「用藜的老茎做的手杖。質輕而堅実」と説明する。

○忘愁…うれいを忘れる。刊本を始めたとする他本では「且啼」とする。この二語だと、「且」を動作の同時進行を示す意の「…しながら…する」とみて〈泣きながら私は霜にそこなわれて咲き残った菊の花を詠じている〉との解釈も成り立つが、この道真の詩情を鑑みれば鎌倉本にある「忘愁」を採る方が妥当と思われる。

○菊殘花…「殘菊」のこと。冬まで咲き残った菊。霜にそこなわれた菊。色香の失せた菊花。『菅家後集』の「505秋晚題白菊」及び「512九月盡」の詩中にも見える。いずれも拙稿で既に語の考察を試みている。⁽³⁾

○月俸…月々受ける手あて。毎月支払われる給料。年俸などに対していう。月奉。月給。

○無極…限りがない。はてがない。無限。

○有涯…限りがある。はてがある。「無極」の対語。

○忘却…わすれてしまう。忘れる。忘失。